

愛知県地震概況

令和2年（2020年）11月

この資料は速報であり、後日の調査で修正することがあります。

○概況

1. 愛知県内で震度を観測した地震の状況

11月に愛知県内で震度1以上を観測した地震は2回発生しました。

2. 愛知県内や愛知県周辺で発生した主な地震

今期間、特に目立った地震活動はありませんでした。

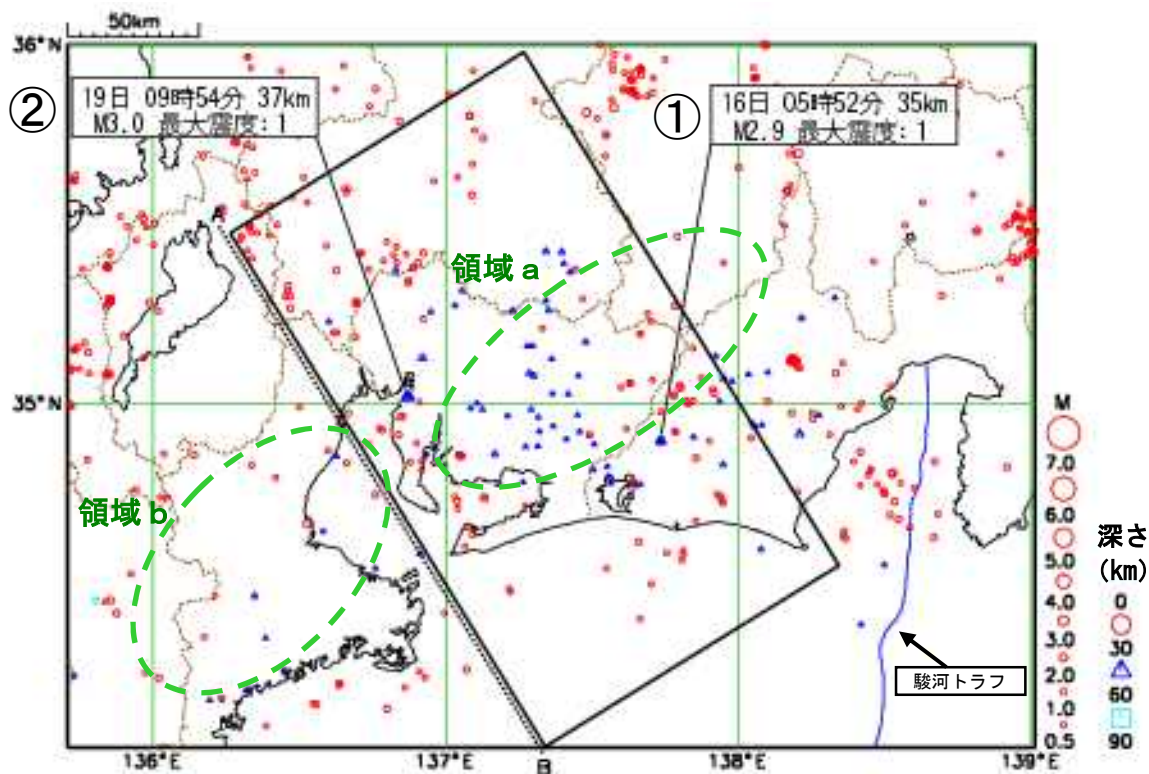
3. 深部低周波地震の活動状況

・東海（領域a）

11日、13日、19～20日、26～27日

・紀伊半島北部（領域b）

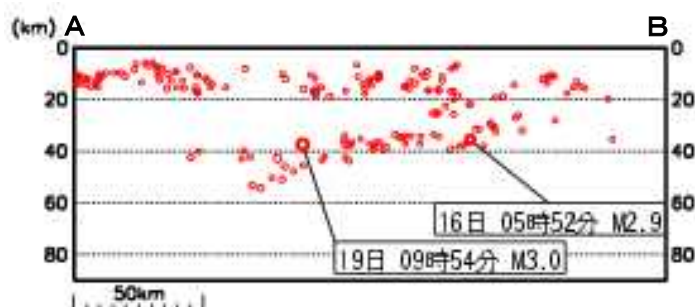
1～6日、8日、12日、26日



震央分布図（2020年11月1日～30日 深さ0～90km M $\geq$ 0.5）

〔 〕 深部低周波地震（微動）

深部低周波地震の震央は震源決定精度が高くないため、地震が発生した領域を破線で表示しています。（注）Mはマグニチュード（地震の規模）の略です。



左の断面図は、震央分布図中の斜めの四角形内の震源を、A-Bに沿って置いたスクリーンに投影する形でプロットしたものです。深さ25km程度までの浅い震源の分布域は、陸側プレートの地殻内の活動によるものです。

○県内で震度 1 以上を観測した地震

静岡県西部（1 頁目震央分布図①）

11 月 16 日 05 時 52 分に静岡県西部で発生した M2.9 の地震（深さ 35km）により長野県根羽村、岐阜県恵那市、愛知県の新城市、豊田市で震度 1 を観測しました（図 1）。1997 年 10 月以降の活動をみると今回の地震の震源付近（図 3 領域 b）は、時々 M3.0 以上の地震が発生するなど普段から地震活動がみられる領域です。2007 年 8 月 31 日には M4.3 の地震（最大震度 3）が発生し、愛知県でも豊田市などで震度 2 を観測しました。

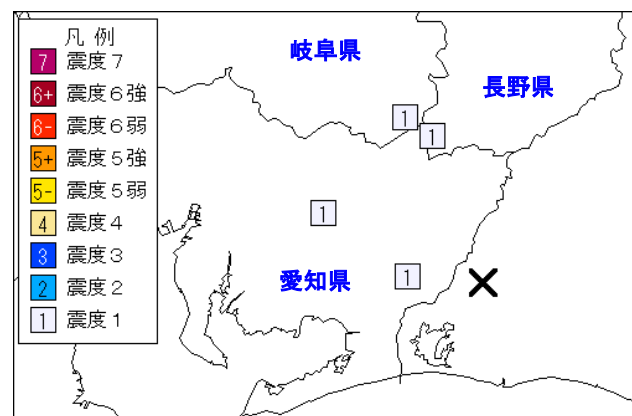


図 1 震度分布図（観測点別、×：震央）

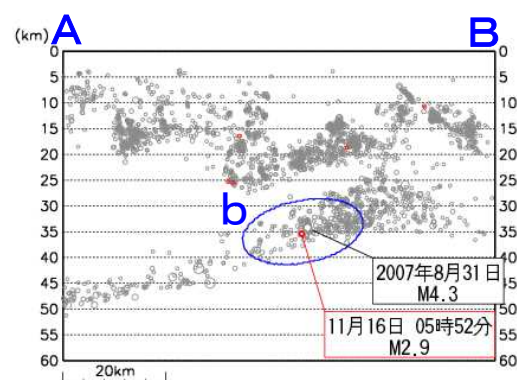


図 3 領域 a 内の断面図（A－B 投影）

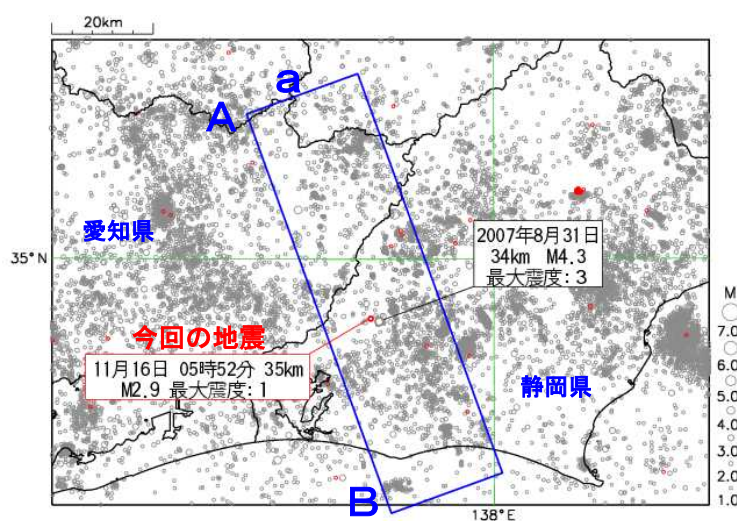


図 2 震央分布図
(1997 年 10 月 1 日～2020 年 11 月 30 日
深さ 0～60km M $\geq$ 1.0)
※2020 年 11 月の地震を赤で表示

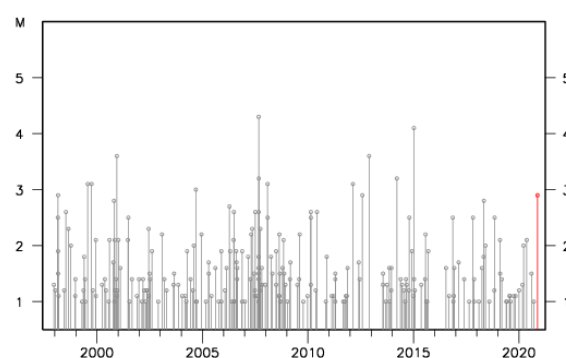


図 4 領域 b 内の地震活動経過図

愛知県西部（1頁目震央分布図②）

11月19日09時54分に愛知県西部で発生したM3.0の地震（深さ37km）により愛知県の一宮市、長久手市で震度1を観測しました（図1）。1997年10月以降の活動をみると今回の地震の震源付近（図3領域b）は、時々M3.0以上の地震が発生するなど普段から地震活動がみられる領域です。2003年2月7日にはM4.1の地震（最大震度2）が発生し、愛知県でも西尾市などで震度2を観測しました。

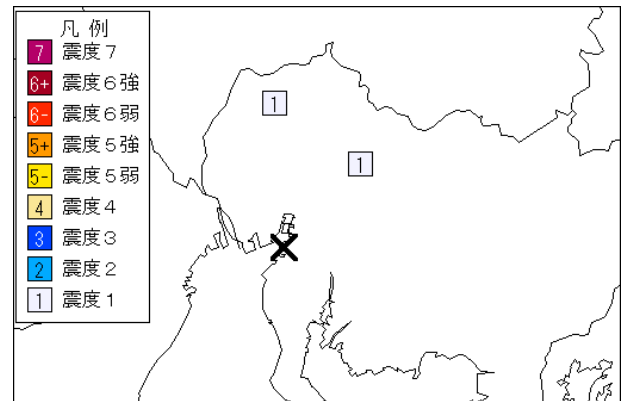


図1 震度分布図（観測点別、×：震央）

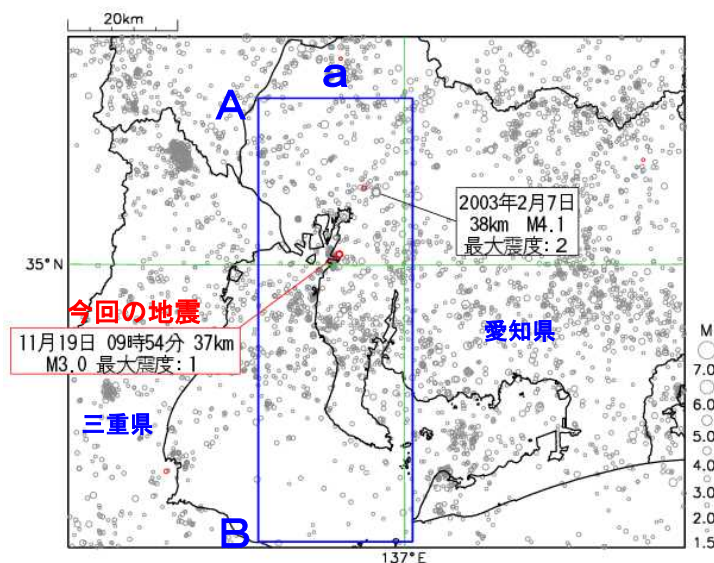


図2 震央分布図
(1997年10月1日～2020年11月30日
深さ0～60km M $\geq$ 1.5)
※2020年11月の地震を赤で表示

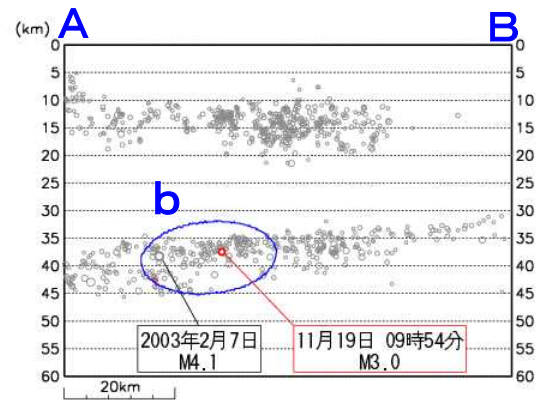


図3 領域a内の断面図（A－B投影）

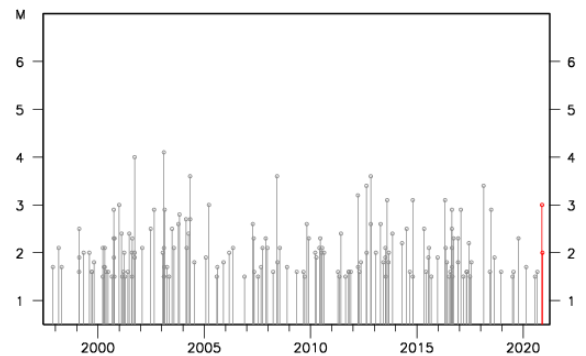


図4 領域b内の地震活動経過図

○震度 1 以上を観測した地震の表（愛知県）

震源時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度					
2020 年 11 月 16 日 05 時 52 分	静岡県西部	34° 53.6' N	137° 44.0' E	35km	M2.9
愛知県	震度 1：新城市矢部, 豊田市坂上町*				
2020 年 11 月 19 日 09 時 54 分	愛知県西部	35° 01.0' N	136° 52.1' E	37km	M3.0
愛知県	震度 1：一宮市千秋, 長久手市岩作城の内*				

（注 *印の地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。）

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※本資料中で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

※地震関係の資料・情報は、名古屋地方気象台のホームページ『<https://www.jma-net.go.jp/nagoya/index.html>』からも随時ご覧になれますので、あわせてご利用下さい。

※この資料に関する問い合わせ先 名古屋地方気象台地震担当 電話 052-751-5124(平日 9-17 時)

※2020 年 9 月以降に発生した地震を含む図については、2020 年 8 月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、新たな海域観測網観測データの活用等により、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがあります。

南海トラフ地震について

～1944 年昭和東南海地震～

1944 年 12 月 7 日 13 時 35 分、三重県南東沖で M7.9 の地震（昭和東南海地震）が発生しました。観測された震度は三重県、静岡県で震度 6[※]、海域で発生したプレート境界型の地震であったため、津波が発生し、三重県尾鷲市で 9 m の津波に襲われるなど、太平洋沿岸の広い範囲で津波が観測されました。この地震の強い揺れと発生した津波により、東海地方を中心に死者 1,100 人以上、住家全壊 18,000 棟以上の甚大な被害が生じました。なお、南海トラフとは駿河湾から紀伊半島の南側の海域を経て日向灘沖までのフィリピン海プレート及びユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を指し、この領域のプレート境界で繰り返し発生してきた大規模な地震を南海トラフ地震といいます。前回は 1854 年だったため、ちょうど 90 年後 の出来事となりました。

※烈震：家屋が倒壊し山崩れが起り地割れを生ずる程度以上の地震（昭和 19 年当時の震度階）



1944 年昭和東南海地震の被害の様子（左が名古屋市港区、右が三重県尾鷲市）

国の地震調査研究推進本部では、南海トラフで発生する地震の長期評価を行っており、その結果を公表しています。それによれば、今後、南海トラフ領域で予想される地震の規模は『マグニチュード 8～9』、30 年以内の地震発生確率は『70～80%』とされています（令和 2 年 1 月 24 日現在）。前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944 年）及び昭和南海地震（1946 年））が発生してから 80 年近く経過した現在、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています。気象庁は、このような地震災害を防止・軽減するために津波警報等の防災情報を発表し、注意や警戒を呼びかけています。地震から身を守るためには、これらの情報を活用し、すばやく避難すること及び日頃からの備えを行うことが大切です。

○地震への備えの例

家具の固定及び万が一倒れてきた場合でも通路をふさがらないような配置にしましょう。

備蓄品・非常持ち出し品の準備をしておきましょう。

○津波への備えの例

ハザードマップを活用し、自宅・勤務地等の危険度を把握しましょう。また、避難場所・避難経路を家族で確認しておきましょう。

